



文化財通信くまもと



第31号
平成25年3月

熊本県
教育委員会

夏休み遺跡発掘体験・見学会

レッツ タイムスリップ！～古（いにしえ）の熊本へ～

身近なところで発掘調査が行われ、日々新しい発見があります。

毎年、夏休みを利用して児童生徒のみなさんに、地域の歴史に学び、本物の土器や石器にふれる感動を味わっていただこうと遺跡発掘体験・見学会を実施しています。



- 飛田遺跡群 -



©2010 熊本県くまモン



- 幅・津留遺跡 -

本年度は、新屋敷遺跡、飛田遺跡群、幅・津留遺跡、北中島西原遺跡の4遺跡と文化財資料室での開催でした。

「お話をすごく分かりやすかったのと、展示品が感動しました。」「身近に文化を知る体験見学会があり、とても良かったです。」などの感想が寄せられ好評でした。

平成24年度「くまもと教育の日」関連事業 きてみてわかった！現場公開



- 北中島西原遺跡 -



©2010 熊本県くまモン



- 飛田遺跡群 -

「くまもと教育の日」(11月1日)関連事業として、発掘調査中の遺跡発掘現場を一般公開しています。

発掘調査現場の雰囲気を体感していただける事業です。

本年度は北中島西原遺跡、小池遺跡、幅・津留遺跡、飛田遺跡群の4遺跡での開催となりました。「石器を見るのが楽しかった。石器ややりを作りたいと思った。」「めずらしい遺跡をわかりやすく説明してもらえた。」などの感想が寄せられました。

国指定名勝及び天然記念物 米塚及び草千里ヶ浜

所在地：阿蘇市乙姫字米塚ほか、阿蘇郡南阿蘇村大字長野字古千里ヶ濱ほか
指定日：手続中

阿蘇山は、南北約 25km、東西約 18km、面積約 380km²の巨大なカルデラを持つ世界有数の活火山です。その中でも「米塚及び草千里ヶ浜」は、神話又は近代詩歌の源泉となった阿蘇山の趣のある景観です。

米塚には、古く阿蘇開拓にまつわり、健磐龍命が収穫した米を積み上げてできたとの神話伝説が伝わっています。米塚は、阿蘇山の中央火口丘の北西の緩傾斜面に位置し、約 3 千年前に形成された美しい円錐形の火山で、山頂には直径約 80 m の火口があります。

また、広々と静かな草原に覆われた草千里ヶ浜は、活火山である阿蘇山とは対照的に、新たな阿蘇の趣のある景観として近代詩人の詩歌にも詠されました。2 つの池が水を湛える凹地状の草原は、その全体が約 3 万年前の噴火によって形成された火口跡です。

これらの米塚及び草千里ヶ浜の草地から成る風致景観は、長い間人が火を入れ放牧することで良好に維持されてきたものです。



県指定重要文化財（歴史資料）領内名勝図巻

所在地：熊本市中央区二の丸 熊本県立美術館
指定日：平成 24 年 4 月 20 日

公益財団法人永青文庫の所蔵で、現在熊本県立美術館に寄託されているこの図巻は、肥後細川家の領内を中心に滝や山、海からのながめ、観光の名所などを描いた 14 卷と目録 1 通からなる風景図で、当時「真景図」と呼ばれていたものの一つです。

14 卷全ての長さを足すと約 400m にもなり、他の風景図と比べ群を抜いた長大さを誇ります。

第 8 代熊本藩主細川斉茲が上益城郡矢部（現：山都町）での狩りの際、千滝と五老ヶ滝に感動して御抱絵師の矢野良勝に写

生を命じ、そのできばえに満足した斉茲が、他の大名たちに披露しようと、肥後国中の美しい風景を良勝と同門の衛藤良行に描かせたことが制作のきっかけになりました。



「神ノ瀬ノ岩屋」（現：球磨村神瀬鍾乳洞）



卷 物

2 年半の歳月を経て寛政 5 年（1793）に完成しています。水墨画を大成した室町時代の絵師雪舟の技法に習い、大胆な筆使いながら細い部分もきわめてリアルに描いており、江戸時代中期の熊本の風景を知る格好の資料です。

また、藩主が大名のサロンで図巻を披露するために描かせたという史実からも貴重な歴史資料といえます。

登録有形文化財 人吉旅館玄関棟、同 東棟、同中央棟、同 西棟

所在地：人吉市上青井町154-1
登録日：手続中（平成24年9月21日文化審議会答申）

人吉旅館の歴史は、昭和5年（1930）頃、初代堀尾芳喜が「料亭末広」（現在の東棟）を開業したことになります。

昭和8年には公衆浴場（現在の玄関棟・中央棟）を始め、翌年、客室8室の温泉旅館「人吉旅館」として再スタート。昭和28年には西棟を増築するなど、折からの温泉ブームに乗り、人吉温泉を代表する旅館として繁盛してきました。

全ての建物が球磨川沿いに客室を配し、正面に入母屋造（注1）の玄関を構え、客室は竹や木を用いて数寄屋風（注2）にし、部屋ごとに異なるデザインを用いるなど趣向を凝らしています。

人吉温泉を代表する近代の和風旅館建築として、また人吉の近代史を物語る資料として貴重なものです。
(注1)入母屋造 上部は切妻造（屋根の2面に斜面がある）、下部は寄棟造（屋根の4面に斜面がある）の構造を持つ屋根で日本の伝統的建築様式の一つ。

(注2)数寄屋(造) 小さく簡素な床の間や深い庭など茶室(数寄屋)の風情を取り入れ、自然の素材を自然のままに使う伝統的建築様式。



人吉旅館

登録有形文化財 芳野旅館本館、同別広間棟、同居間棟、同従業員棟

所在地：人吉市上青井町180
登録日：手続中（平成24年9月21日文化審議会答申）

初代田口豊吉が、肥薩線開業を目前にぎわう人吉で運送業を始め、明治42年（1909）、妻の実家安藤家の屋敷（現在の居間棟、明治21年建設）を改築して料亭「吉野本店」を開業したことに始まります。

大正時代初めに別広間棟・従業員棟を増築、昭和6年（1931）には現在の本館を増築し、「芳野旅館」と改名して旅館業を始めました。現在の建物は、こうした旅館発展の歴史を如実に物語っています。



芳野旅館（正面）

また、本館・別広間棟は入母屋造の玄関を構え川船・水車の古材、茶茎、竹などを用いた数寄屋風の客室を持ち、従業員棟・居間棟は色付ガラス窓を備えるなど洗練されており、かつ、それらの建物が中庭を囲むように建ち温泉旅館の風情を醸し出しています。

人吉旅館と共に、人吉温泉を代表する近代の和風旅館建築として、また人吉の近代史を物語る資料として貴重なものです。

登録有形文化財 高木医院

所在地：菊池市隈府字城山1323-1
わいふあざしろやま

登録日：手続中（平成24年12月14日文化審議会答申）



高木医院

菊池高校の向かいに建つ木造2階建の洋風の病院建築で、昭和6年（1931）、外科の医院として建てられました。

現在も内科医院として使われており、1階を診療所、2階を応接室などにしています。

柱や梁の構造を外側に見せるハーフティンバー壁、ドーマー窓（採光のための屋根付き窓）をのせた半切妻のスレート（石板）葺屋根など、当時流行る洋風建築技術を巧みに取り入れており、通りに面した壁の窓には、三角形や半円形など幾何学的なデザインで通行人の目を楽しませてくれます。

一方で、内部は格子天井や阿蘇五岳をあしらった透かし欄間など和風デザインを積極的に取り入れており、昭和初期のレトロで洒落た洋風建築として、城下町隈府の街並みに彩りを添える貴重な建物です。

登録有形文化財 旧松倉家住宅主屋

所在地：菊池市隈府字城山1329-2
わいふあざしろやま

登録日：手続中（平成24年12月14日文化審議会答申）

昭和7年（1932）、大地主松倉萬次郎が料亭として建てた木造2階建の町家建築です。

通り側に大小の入母屋屋根（注1）を見せ、1階の窓には出格子（注2）を、2階の窓には手摺を設けています。

座敷の床柱などには檜・黒柿などの銘木が使用され、欄間飾りには波欄間（注3）を用いるなど凝った工夫が随所に見られ、料亭であった往時をしのぶことができます。

隣にある「菊池松囃子能場」（県指定重要民俗文化財）や「将军木」（県指定天然記念物）と共に御所通りの歴史的景観を構成する建物として貴重なもので



旧松倉家住宅主屋

（注1）入母屋屋根 上部は切妻造（本を伏せたような山形の屋根）、下部は寄棟造（前後左右の四方向へ勾配をもつ屋根）を合体させた屋根の構造。

（注2）出格子 窓から外へ張り出して作ってある格子。

（注3）波欄間 細い桟を縦に細かく組んだ欄間。

登録有形文化財 宮村家住宅主屋、同石垣

所在地：菊池市西寺宇雷1075

登録日：手続中（平成24年1月21日文化審議会答申）

郊外の田園地帯に建つ木造寄棟造（注1）の豪農の
住宅で、大正時代の初め、大地主であった宮村貞
鶴によって建てられました。

周囲に下屋根を巡らし、厳選した銘木を用いて
造られ、土間に上には重厚な梁組みが見られます。
十畳三間続きの座敷には、阿蘇五岳を刻んだ見事
な欄間飾りで仕切られています。前面の石垣は
4.6メートルにも及び、民家ではまれな長さを誇っ
ています。

どこからでも目に付く大型の豪農住宅はのどか
な田園風景の一要素になっており、現在は展覧会
場やコンサートホールとして積極的に活用されています。

（注1）寄棟造 前後左右の四方向へ勾配をもつ屋根を合体させた屋根の構造。



宮村家住宅（南面）

追加指定・選定の文化財について

・平成24年度は、数多くの文化財で、追加の指定・選定が進みました。

国指定重要文化財（建造物） 三角旧港（三角西港）施設

所 在 地：宇城市三角町三角浦字瀬戸

追加指定日：平成24年7月9日

既指定範囲：石積埠頭1所、排水路3所、

道路橋4基（平成14年指定）

追加指定範囲：後方水路1所

概 要：市街地背後の山裾に沿つ
て設置された813mに及
ぶ石積排水路で、明治20
年（1887年）の竣工。地形
や潮の干溝を考え、緩やかな曲線を描くなど効率的に排水する工夫がみ
られます。



三角西港後方水路

三角西港後方水路

国指定史跡

くまもとはんかわしりこめぐらあと
熊本藩川尻米蔵跡

所 在 地：熊本市南区川尻 追加選定日：平成24年9月19日

くまもとはんかわしりこめぐらあと
熊本藩川尻米蔵跡は、加勢川下流に位置し、中世のころより中継貿易港として繁栄しました。そして、江戸時代には熊本藩の年貢米や物資の集散拠点の1つとなり、軍港としても機能していました。

おふなてわなばあと
御船手渡し場跡は、すでに指定を受けている船着場跡のやや下流右岸にあり、対岸に居住した杉島御船手衆が川尻へ行き来するために利用されていました。

くまもとはんかわしり
なお、今回の追加指定にあわせて、名称を「熊本藩川尻
米蔵跡 外城蔵跡 船着場跡」から「熊本藩川尻米蔵跡」へ変更しました。



国選定重要文化的景観

あまくさしさきつ いまとみ ぶんかてきけいかん
天草市崎津・今富の文化的景観

所 在 地：天草市河浦町大字崎津・今富

追加選定日：平成24年9月19日

崎津地区がカケやトウヤなど海岸部の独特な土地利用の在り方を示す漁村景観であるのに対し、今富地区は農村景観です。

今富地区では、近世以降の干拓で農地を広げながら山々に集落を営んできました。

なお、今回の追加選定にあわせて名称を「天草市崎津の漁村景観」から「天草市崎津・今富の文化的景観」へ変更しました。



国指定史跡

みついみいけたんこうあと みやはらこうあと まんだこうあと せんようでつどうじきあと
三井三池炭鉱跡 宮原坑跡 万田坑跡 専用鉄道敷跡

所 在 地：荒尾市原万田字蓮池ほか（福岡県大牟田市にまたがる）

追加選定日：手続中

三井三池炭鉱跡は、明治期の炭坑遺構がのこる日本を代表する炭鉱跡です。宮原坑跡・万田坑跡の周辺及び専用鉄道敷跡が追加指定されました。

専用鉄道敷は各坑口と三池港を結び石炭や資材の運搬に用いられました。

なお、今回の追加指定にあわせて名称を「三井三池炭鉱跡 宮原坑跡 万田坑跡 専用鉄道敷跡」に変更します。



史跡 西南戦争遺跡

所在 地：熊本県熊本市北区植木町、玉名郡玉東町

指定日：手続中

あめ ふ ふ
 「雨は降る降る 人馬は濡れる

こ こ
 越すに越されぬ たばるさか
 田原坂」

(民謡「田原坂」抜粋)

日本最大・最後の内戦である西南戦争に関係する遺跡が、「西南戦争遺跡」として国史跡に指定されました。西南戦争は、明治10年（1877）に鹿児島士族層を中心とする士族が明治政府に反旗を翻した内戦で、鹿児島・宮崎・大分・熊本を巻き込んで行われました。熊本では熊本城や人吉城周辺など県内のほぼ全域が戦場となりました。なかでも植木町・玉東町一帯は、特に激しい戦闘が繰り広げられた場所の一つとして有名です。

両地域では、熊本城援軍のために南下する政府軍とそれを阻止しようとする薩摩軍が、田原坂や横平山を巡って2月下旬から4月初めにかけて激突しました。民謡に謳われる田原坂の戦いも3月4日から17昼夜続きましたが、3月20日、政府軍が田原坂を占領し終結します。その後も市街戦が展開されますが、ついに薩摩軍は敗退、政府軍は熊本城に入城します。この田原坂をはじめとする植木・玉東での戦いに政府軍が勝利をしたことが、西南戦争の結末を決定づけるものになったといわれています。また、戦時には玉東町木葉に大綱帶所（病院）が置かれ、負傷兵の手当を行っていたといわれています。今回指定を受けたのは、田原坂、横平山、半高山・吉次峠などの古戦場や砲台跡、大綱帶所が置かれ銃弾跡が残る正念寺山門、政府軍が葬られた官軍墓地等です。日本近代の政治・軍事を知るうえで極めて重要であると評価され国史跡に指定されました。

明治以後の戦争に関する遺跡が本格的に国指定を受けたのは西南戦争遺跡が初めてです。



そうしょくこふんかん 装飾古墳館の取り組み

装飾古墳館では、古墳の修復、或いは保存に関わる調査を行っています。

最適な保存環境の確立は大変困難な課題ですが、一般的な考え方としては、温度や湿度の急激な変化を避けることを重視しています。例えば、桐などの白木の箱は、昼と夜の急激な温度変化を緩やかにする効果があると考えられ、古くから掛け軸や宝物を納める容器に使われてきました。装飾古墳の保存においても、急激な温度変化を起こす要因を取り除くことが重要と考えられます。写真は、ある古墳内部の表面温度を示した画像です。画像右隅の表面温度が赤く表示されていることから、僅かな隙間があることが窺えます。

こうした隙間を早期に見つけて塞ぐことも、古墳の保存環境を維持することに繋がると考え、古墳の保存施設を対象に、定期的な観察を行っています。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館

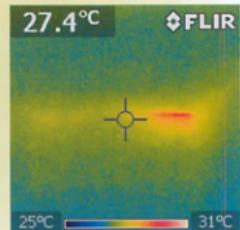
〒 861-0561

熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085

TEL 0968 (36) 2151

装飾古墳館ホームページ

<http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp>



熱画像カメラによる石室内の観察
(※熱画像は、写真的石室とは関係ありません。)

熱画像

しせきさくくちじょうあと

史跡鞠智城跡の特別史跡指定・国営公園化を目指しています

鞠智城跡は山鹿市と菊池市にかけて所在する古代山城で、国史跡に指定されています。

昭和 42 年から始められた発掘調査は 32 次を数え、これまでに貴重な遺構や遺物が発見され、「温故創生館」で展示・解説しています。

熊本県教育委員会では現在、特別史跡指定に向けた様々な取組みを進めています。

平成 24 年 8 月 26 日には熊本テルサで、また 9 月 22 日には、九州国立博物館において、「ここまでわかつた鞠智城」というテーマでシンポジウムを開催し、多くの方々にご参加いただきました。

また、9 月 11 ~ 23 日には九州国立博物館に鞠智城ブースを出し、鞠智城の周知に努めました。このほか、「さきもりころう隊」が各地に出陣し、ころう君が鞠智城を P R しています。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒 861 - 0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原 443 - 1

TEL 0968(48)3178

鞠智城温故創生館ホームページ

<http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

さきもりころう隊オフィシャルサイト

<http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/>



発掘！調査現場から

ひだいせきぐん 飛田遺跡群　—謎の大きな溝—

溝といえば水を流すために掘られたり、区画のために掘られたりすることが多いようです。

飛田遺跡群では調査区内を北～南に長さ33m、幅2～8m、深さ85cm～2m40cmの大きな溝が見つかりました。

溝の中からは7基のお墓も見つかりました。

人骨の残りがよいものとよくないものがあって、専門家に骨の取り上げをお願いしたところ、埋葬形態から江戸時代のものではないかということでした。

大きな溝は陸橋部もありました。

方形周溝墓の周溝に似ている点もありますが、時代を特定するものもありません。何でこんなに深く掘ったのか、謎の大きな溝です。



しんやしきいせき 新屋敷遺跡　—溝と獸骨—

今回、新屋敷で古代（奈良・平安時代）の大溝の調査を行いました。

この溝は白川小学校の方から川に向かっていて、深いところで地表から約5メートルになりました。

大水害の後に調査を再開し、溝の両側から3体の人骨と底のところから約30点の獸骨が見つかりました。

3体の人骨は溝の両岸の浅い所に埋められていました。

溝の底には大小の石が固まって出てきました。

その間に挟まるるように馬の骨が見つかっています。

獸骨は、大きさから数頭の馬が捨てられたのではないかと考えています。



溝の調査風景

きたなかしまにしひらいせき 北中島西原遺跡　—旧石器時代の狩人たち—

上益城郡山都町にある北中島西原遺跡は、標高520mの丘陵地に位置しています。

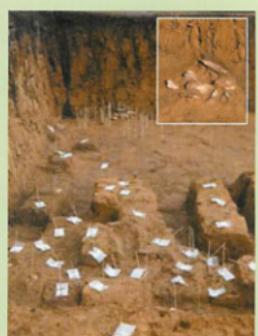
今年度の調査では、旧石器時代の後期にあたる約20000年前の石器が見つかりました。

後期旧石器時代の代表的な石器であるナイフ形石器がその一つです。

他にも、石器を作るときにできる破片がまとまっている場所や焼石の集まりもいくつか見つけることができました。

当時の人々が、そこで石器を作ったり、火を使ったりしていたのでしょうかね。

この遺跡では、縄文時代、弥生時代の遺物（土器や石器）や遺構（穴）も見つかっています。



旧石器時代の遺物は、このよう
に土の深くから出できます

幅・津留遺跡 一鉄で栄えた弥生の巨大集落－

幅・津留遺跡は、弥生時代の中頃から終わりにかけ栄えた集落の跡です。その大きさは少なくとも1,300m以上あります。

つくられた時期が異なる2つの集落があり、西のムラと東のムラと呼んでいます。

現在、発掘を行なっているのは東のムラです。

このムラは、石の道具を使っていた西のムラとは異なって、鉄の道具をたくさん使用します。

また、鉄を多量に含む土（阿蘇黄土）を焼いて絵の具の原料であるベンガラをここで作っていました。

今年度の発掘によって、鉄によって栄えて集落であったことが少しずつわかつてきました。



鍛っかがついた小刀



鉄でできたやじり

塔平遺跡 一まとめて見つかった竪穴住居群－



塔平遺跡は、上益城郡益城町にある遺跡で九州横断道路建設に伴う埋蔵文化財発掘のため平成24年11月～12月末まで発掘作業を行いました。

調査面積は300m²程で、縄文時代・弥生時代・奈良・平安時代の遺物、遺構が確認されました。縄文時代の遺物として竪式土器や打製石斧やすり石などが出土しています。

主な遺構は、縄文時代の集石が2基、焼土坑2基、弥生時代の竪穴建物が9軒、土坑19基、奈良・平安時代（古代）の竪穴建物5軒、土坑11基が見つかりました。奈良・平安時代（古代）の竪穴建物5軒とともに西側に竈が造られており、同じ方角に竈を作っている事が分かりました。

当時の人達は風向きなどを考えて竈を作っていたのかもしれませんね。

小池遺跡 一つに未知の寺を発見？－

小池遺跡は、上益城郡益城町小池にある遺跡です。

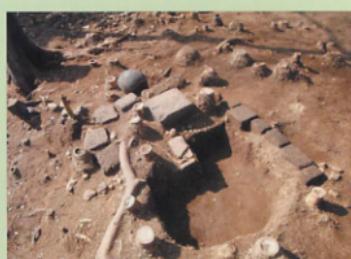
南方には飯田山を望む立地で周辺には多くの石仏石塔があります。

現在当地に寺はありませんが、遺跡周辺には「寺地面」という地名も残っており、以前から未知の寺の存在が取りざたされていました。

今回の調査では、中世から近世にかけての僧侶の墓である無縫塔とそれを囲む石列、さらに五輪塔や宝塔等が見つかりました。

残念ながら寺そのものは確認できませんでしたが、間接的には寺の存在を確認できたと言えます。

まだ見ぬ寺が見つかる日もそう遠くないかもしれません。



しんばしゃくいせき

新馬借遺跡 B 地区

どるい

—土壙がありました—

しんばしゃくいせき

新馬借遺跡 B 地区は 5 月から 8 月までの短期間の調査でした。

今回は遺物ではなく土の堆積にその姿を見ることができました。

新馬借遺跡は江戸期の造られた高麗門に近在していますが、絵図には
こうらいもん
高麗門の守りのためと思われる土壙が見られます。

今回はこの土壙跡と考えられる土の堆積が見つかりました。

版築と呼ばれる工法で少量の土を繰り返し突き固め、土壙を強固にするための技法です。

土壙の頂上部は削り取られてありませんが、基礎工事でこの工法を見ることができます。



にほんぎいせきぐん

二本木遺跡群（田崎工区）—古代がよみがえる—

にほんぎいせきぐん

二本木遺跡群（田崎工区）は、熊本市西区田崎にある遺跡で、JR 鹿児島本線・豊肥線連続立体事業のため平成 24 年 2 月から平成 24 年 7 月まで発掘調査を行いました。



3 区

調査面積は、約 500 m²で、主に古代の遺物や遺構が確認されました。

遺物は、土師器や須恵器が出土しました。

主な遺構は竪穴建物跡 5 軒（8 世紀から 9 世紀）溝 5 条、井戸 6 基、柱穴多数、防空壕跡などです。

中でも、古代の墓が確認でき、人骨と土師器が同時に発見できました。人骨は 10 世紀代のもので、女性と思われます。



2 区

はなおかやま まんにちやま

花岡山・万日山遺跡群の調査—線路の下から「御成道」が出現—

熊本城最西端に設けられた高麗門から熊本藩主細川家の菩提寺であった

妙解寺（現北岡自然公園）まで続く道がありました。

細川家の殿様がその寺へお参りする際にその道を通ることから「御成道」と呼ばれていました。

この道は鹿児島本線などの鉄道工事でなくなってしまったと考えられていますが、その跡の一部がなんとその鉄道の下から重なるように現れました。

「御成道」というしっかりした道の跡をうまく利用して、鉄道という新たな道を築いたといえるでしょう。



おなりみち 石垣の間の「御成道」



熊本県文化財資料室紹介



【資料室の前身 産業開発青年隊】

熊本県文化財資料室は、平成20年に熊本市内各所に分散していた収蔵庫を集め、現在の所在地（熊本市南区城南町沈目1667番地）に移転してきました。

産業開発青年隊の跡地で、写真ではトラック教習所が見えます。

現在、この教習所には4棟の収蔵庫が建っています。

埋蔵文化財発掘調査の出土遺物の収蔵・管理を行っています。

資料室の業務

(1) 資料の維持管理・貸出

- ・収蔵資料及び調査資料の管理・貸出
- ・出土品の保存・修理
- ・調査報告書等の登録・管理・閲覧・貸出

(2) 教育普及に関すること

- ・「文化財通信くまもと」の編集・発行
- ・文化財資料室の一般公開・文化財普及活動
- ・小・中学校の校外活動・PTA活動の受け入れ
- ・「考古学・学習キット」の貸出など

－ 平成23年11月に展示・体験学習棟がオープン－

平成24年度には勾玉作り（8月）・土器焼体験教室（2月）を実施、展示では熊本城高麗門の出土遺物展、平成24年度発掘調査速報展を行っています。



【展示・体験学習棟】



【展示室】

熊本県文化財資料室

〒 861-4215 熊本県熊本市南区城南町沈目1667番地

Tel : 0964-28-4933 Fax : 0964-28-7798

E-mail : shiryoushitsu@pref.kumamoto.lg.jp

アクセス

◎公共交通機関

JR 熊本駅前→市電→辛島町（交通センター前）下車

所要約 15 分

阿蘇くまもと空港→リムジンバス→交通センター行

所要約 50 分

○熊本交通センター（A-4番乗場）から

方法①熊本バス南23路線、甲佐・白石野行

所要約 40 分

「グラウンド入口」（B&G 海洋センター前）下車

所要約 10 分

○熊本バス南17-20路線、松橋・宇土・段鉄行

所要約 40 分

「城南」下車、タクシー 10～15 分

◎自動車利用

九州自動車道 御船 I.C.→熊本方面（445号）→宇土方面（50号）に直進

「上仲間」交差点左折→城南・宇城方面→（266号）を 3.6 km 直進



熊本県発掘調査速報会

「熊本 ば！発掘する」

文化課では、子どもたちをはじめ多くの県民の皆さんに本や雑誌ではなく発掘調査で発見された本物の土器や石器などに直接触れて、自分が住んでいる熊本の歴史に関心をもってもらい、身近に本物の文化財のすばらしさや感動を味わってもらうことを目的として発掘調査速報会を開催しています。

プレゼンテーションやポスターセッション、実際に触る活動を取り入れました。

今年は、約400名の参加があり、「たいへんためになる説明でした。」「今後も楽しみにしています。」などの感想がありました。

**熊本県文化財資料室展示体験教室**

勾玉作り



「道具の今昔」講座

～古代勾玉作り体験～

H24年8月13日～16日

お盆の期間展示体験学習棟にて勾玉作り・「道具の今昔」講座実施しました。

スクリーンや実物を使っての分かりやすい職員による解説で、参加者のアンケートでも大変好評でした。

～新馬借遺跡出土遺物展示～

H24年6月～H24年11月

高麗門跡から妙解寺へと続く参道跡・
堀跡から出土した加藤家・細川家の家

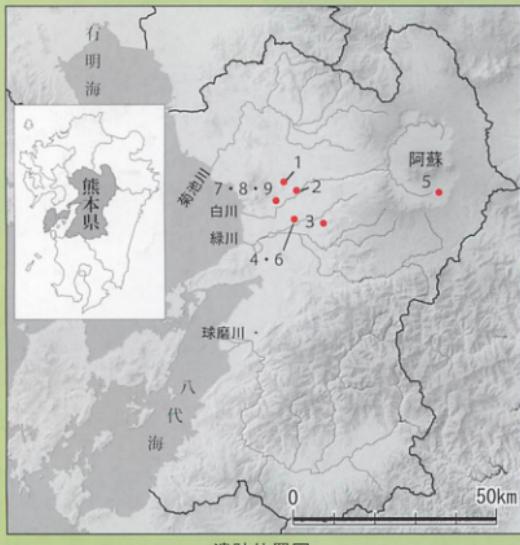
紋を象った軒丸瓦や滴水瓦などの展示
をしました。

12月からはH24年度発掘調査速報
展を実施しています。

こうらいものんあと
高麗門を象った展示室入口てきすいかわら
滴水瓦や大名家紋入瓦展示

平成 24 年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	調査期間
1	飛田遺跡群	熊本市北区四方寄町	古代・中世	竪穴建物、土坑、道路状遺構、土師器、須恵器	H24.5 ~ H25.3
2	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	古代	墓・溝	H24.5 ~ H24.9
3	北中島西原遺跡	山都町北中島	旧石器・縄文・弥生	竪穴建物、土坑、旧石器・縄文土器、弥生土器、鏡	H24.5 ~ H24.12
4	塔平遺跡	上益城郡益城町	縄文・弥生 奈良・平安	集石、焼土坑、竪穴住居、轟式土器、打製石斧、すり石	H24.11 ~ H24.12
5	幅・津留遺跡	阿蘇郡高森町	弥生	竪穴建物、倉庫跡、区画溝、墓、標柱石、弥生土器、鉄鎌、鉄斧など多数	H24.5 ~ H25.3
6	小池遺跡	上益城郡益城町	中世～近世	無縫塔、石列・五輪塔、宝塔	H24.9 ~ H24.11
7	新馬借遺跡	熊本市中央区新町	弥生・中世・近世	土壘、沼、包含層	H24.5 ~ H25.8
8	二本木遺跡 (田崎工区)	熊本市西区田崎	古代	竪穴建物、溝、井戸、土師器、須恵器	H24.2 ~ H24.7
9	花岡山・万日山 遺跡群	熊本市中央区新町	近世	竪穴建物、溝、井戸、土師器、須恵器	H24.5 ~ H24.11



考古資料学習セット

県文化課では、小・中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を作製し、貸出しています。

本物の遺物を直接手でふれ、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を確かめて欲しいと思います。

【問い合わせ】

熊本県教育庁教育総務局文化調査係

096-333-2706 (2707)

熊本県文化財資料室 0964-28-4933

考古資料学習キット



文化財通信くまもと第 31 号 平成 25 年 3 月 31 日

発行：熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7200

編集：熊本県文化財資料室 TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷：有限会社 あすなろ印刷

発行者：熊本県

所 属：教育庁文化課

発行年度：平成 24 年度